



2002年、京都にて：セヴァン・スズキと中村隆市

ことが、ものすごいいきおいで起こっているのに、私たち人間ときたら、まるでまだまだ余裕があるようなのんきな顔をしています。まだ子どもの私には、この危機を救うのに何をしたらいいのかはつきりわかりません。でも、あなたがた大人にも知ってほしいんです。あなたがたもよい解決法なんてもっていないっていうことを。・・・死んだ川にどうやってサケを呼びもどすのか、あなたは知らないでしょう。絶滅した動物をどうやって生きかえらせるのか、あなたは知らないでしょう。そして、今や砂漠となつてしまった場所に

それに加えて、世界的な肉食の増加に伴って、牧場をつくるために森林が伐採され、さらに家畜のエサを栽培するために森を伐採しています。エサの大半は、遺伝子組み換えの大豆やトウモロコシ

※IPBES（生物多様性に関する政府間科学政策プラットフォーム）は、「人間活動によって生物種の多くで地球規模の大絶滅が進行しており、およそ100万種が今後数十年のうちに絶滅する恐れがある」と2019年に警鐘を鳴らしている。

伝説のスピーチから30年が経ちました。「成長の限界」の発表からは50年が過ぎましたが、人類は未だに地球環境を悪化させ続けています。世界の森や海や大地で「開発」という名の自然破壊がくり返され、世界の生物多様性は過去50年で68%も失われ、その結果「生物種の絶滅」が信じられない速さで進行しています。1975年の年間絶滅数は1000種だったのが、今は年間4万種もの生物が絶滅しています。実に40倍にもなっています。

どうやって森をよみがえらせるのかあなたは知らないでしょう。どうやって直すのかわからないものを、こわし続けるのはやめてください」と。

この植物と微生物群との共生関係によつて炭素が微生物に与えられ、植物もよく育つことができのですが、「工業的な農業」は農薬と化学肥料の大量使用によつて、その重要な微生物を殺してしまします。その結果、温暖化を加速させているのです。近年、

森林が二酸化炭素の吸収に役立っていることはよく知られていますが、森の樹木が吸収しているCO₂以上に森の土壌が吸収しているCO₂の方が5倍も多いことは、あまり知られていません。このことは、森の土壌だけでなく農地の土壌でも同様です。植物の根の周辺に共生する「菌根菌」と呼ばれる微生物がいますが、植物は根を伸ばして液化した炭素を土中に溢れさせて菌根菌に栄養を届けます。代わりに、菌根菌は根よりも多くのミネラルや栄養や水分を集めて植物の生育を支えています。

であり、大型機械を使つて農薬と化学肥料と水を大量に使用して栽培しています。このような「工業的な畜産」や「工業的な農業」の拡大が生物多様性の減少と生物種の絶滅を加速させるだけでなく、温暖化ガスの吸収源を減少させています。

その柱になるのは、有機農業を普及させることです。農薬と化学肥料を大量に使用して単一品種の大規模栽培や遺伝子組み換え作物を生産する工業的な農業、工業的な畜産を変えていくことです。もう一つの柱は、森を守り森

有機農業と

アグロフォレストリー

そうした状況の中で、「私たちにできることは何か？」を考えてきました。有機農業と森林農法、そしてフェアトレードの普及に取り組んできたウインドファームは、創業35年の経験を生かして気候変動や生物種の絶滅が加速している現状を少しでも良くしていくために、（有）有機コーヒー（株）セカエルと協力して、環境団体や有機農業生産者とも連携しながら新たな事業に取り組むことにしました。

今の私たちに

できることから始める

気候危機が進行する中で、こうした土壌微生物の重要性が国際的な研究で明らかになり、有機農業や森林農法の重要性が増しています。

新事業へ チャレンジ

オーガニックカフェ OPEN !!



ウインドファームグループの始まりは、1987年の「有機農産物産直センター」の設立でした。

翌1988年には無農薬コーヒーの自家焙煎を始めます。その後、生産者から直輸入するフェアトレードを広める中で、「有限会社有機コーヒー」という会社を設立しました。当時は「有機コーヒー」という言葉が一般に使用されていなかったため、「一般名詞」である「有機コーヒー」が奇跡的に社名として登記されました。

有機コーヒー社は、日本で初めて有機コーヒーをフェアトレードで輸入した会社であり、日本で初めて有機認証のあるカフェインレスコーヒーを製造した会社でもあります。そんなウインドファームグループが創立35周年の年に、オーガニックカフェウインドファーム（テイクアウト＋イートイン）を開店しました。

有機農業とフェアトレード の普及に取り組んできた ウインドファームグループが 「オーガニックカフェ・ ウインドファーム」を 開店した理由

今から50年前の1972年にローマクラブが資源と地球の有限性に着目し、『人類の危機リポート・成長の限界』を発表しました。その内容は、「人口増加や環境汚染などの現在の傾向が続けば、100年以内に地球上の成長は限界に達する」つまり、このまま地球環境の将来に配慮しない経済活動が続けば、地球の破局は避けられないという強い警鐘を鳴らすものでした。

それから20年後の1992年、ブラジルで国連環境開発会議（地球サミット）が開催され、当時12歳の少女だったセヴァン・スズキが演壇に立つて「伝説のスピーチ」をしました。

「今、動物や植物たちが毎日のように絶滅していくのを、私たちは耳にします。それらは、もう永遠にもどつてはこないんです。・・・こんな大変な

を再生できるアグロフォレスト
リー（森林農法／森林農業）
を普及させて森林破壊をくい止
め、森を増やしていくことです。

具体的には、アグロフォレス
トリーで生産している中南米や
アジア、アフリカの有機農産物
を今まで以上にフェアトレード
で購入して全国に流通させてい
くことです。特に、ウインド
ファームが長年提携してきたト
セパン協同組合をモデルに、自
然との共存を掲げて「国策」と
して森林農法に取り組んでいる
メキシコを応援することは、世
界に森林農法を広める上で大変
重要だと考えています。今後、

メキシコで増えてくる有機農産
物をフェアトレードで購入する
量を増やしていきたいと思いま
す。

そのためには、今まで以上に
理解者を増やしていく必要があ
ります。そこで、森林農法の有
機農産物を本格的に流通させて
いくための実験として「オーガ
ニックカフェ」と「オーガニック
キッチンカー」を連携させて展
開することになりました。4月に
北九州でカフェを開店し、福岡
と東京でキッチンカーを走らせ
始めています。8月には福岡市
にもオーガニックカフェを開店
する予定です。

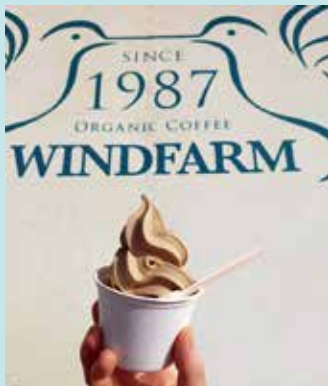


福岡で出店したキッチンカー

これらの店舗（と一部のキッ
チンカー）では、森林農法で栽
培されたコーヒーやカカオ、果
物、スパイスなどの他に、福岡
県の有機農業生産者が栽培され
た野菜や米を使用したヴィーガ
ンのオーガニック弁当なども販売
しています。生産者には有機農
業と福祉の連携（農福連携）に
取り組んでいるオーガニックパ
（株）さん、福岡県赤村で40年
以上も有機農業に取り組み、
全国的な生産者の連携を構築
してきた（株）鳥越ネットワー

クさんなどがおられます。
こうした実験的なオーガニック
カフェやオーガニックキッチンカー
によって、一定の経営が成り立つ
「オーガニック・ビジネスモデル」
が確立されたときには、弊社の
志に共感していただける全国の
皆さんとの連携が進展するの
ではないかと期待しています。

がソフトクリーム製造会社とコラ
ボして開発した有機豆乳&有
機コーヒー&有機バナナフラ
ワー（粉）&有機ココナッツミル
クで作られたソフトクリームの販
売が始まる予定です。



環境や支援 考えるカフェ

途上国から有機栽培のコーヒーなどを
適正価格で購入し、現地の人たちの自立
を支援するフェアトレードに取り組んで
いる水巻町の会社「ウインドファーム」
が、カフェを同町猪熊にオープンした。
環境保全に配慮しながら農産物の栽培を
続ける現地農場の取り組みも紹介してお
り、代表の中村隆市さん（66）は「地球温
暖化の問題や途上国支援に関心のある人
に、気軽に訪れてほしい」と呼びかけて
いる。（柿本高志）



水巻・フェアトレード会社

無農薬コーヒー、有機野菜



コーヒーをいれる中牟田さん（左から2人目）らスタッフ



店名は「オーガニックカ
フェ ウインドファーム」
で、広さは約170平方
メートル、遠賀川に架かる御牧大橋の

近くにある飲食店跡を改装
し、4月22日にオープンし
た。

長年、ブラジルで農業を
使わないオーガニックコー
ヒーを生産している農場主
にちなんで命名した「カル
ロスさんのコーヒー」や、

エクアドルとメキシコの豆
をブレンドした「ハチドリ
のひとしずく」などオリジ
ナルのコーヒーを楽しめ
る。有機栽培した野菜をた
っぷり使った筑紫野市の
「オーガニックパパ」の弁
当も販売する。

中村さんは、途上国のコ
ーヒー農場で多くの子ども
たちが働き、大量の農薬を
使うケースが多いことを知
り、「有機農法を広め、子
どもたちの置かれた状況を
改善したい」と、1988
年に無農薬コーヒーの取引
を始めた。国内外でフェア
トレードの大切さを訴え続
けており、現在は、中南米
や東南アジア各国からコ
ヒーや紅茶、カカオ豆など
も輸入している。

今回オープンさせたカフ
エの店内では、フェアトレ
ードや有機農法など各国の
取り組みを紹介する映像を
流し、パネルも展示。メキ
シコを中心に中南米各国で
広がっている森林農法も紹
介している。

この農法では、樹木や多
様な果樹、トウモロコシと
カフェの営業時間は午前
11時～午後6時。月曜が定
休日。今月5日までは、コ
ーヒーやソフトクリーム、
クレープなどの商品が割引
価格になる。問い合わせは
ウインドファーム本店（0
93・202・0081）へ。

